

背景～これまでの取組～

■ R 2.12、瀬戸内オーシャンズX発足

日本財団と瀬戸内4県（岡山、広島、香川、愛媛）連携協定締結

■ R 3県調査で、南予地域の立入困難海岸に軽トラック 約3万2千台相当の漂着ごみを確認（東・中予は各600台）

■ R 5.11、日本財団・瀬戸内オーシャンズXとの連携による 上陸母船を活用した巡回回収の技術検証実施

■ 技術検証を踏まえ、南予地域の漂着ごみの約8割が集積する ホットスポット107海岸を、6年度から3年間で一掃する 重点回収事業を開始 ⇒ 8年度末で完了見込み



記者配布資料



写真提供：日本財団

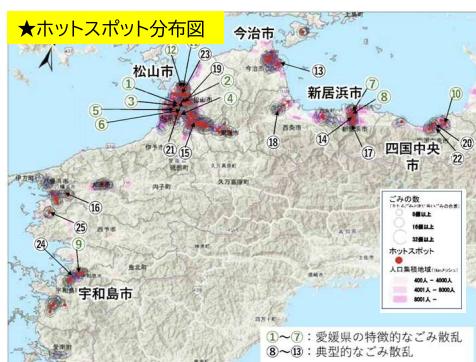


次なるステージ 『新たな発生抑制に向けた河川ごみ対策の強化』

1

現状～河川ごみの状況と海洋への流出～

■ 日本財団調査（R 2）では、県・市町管理河川のホットスポット399か所のうち 約9割（347か所）が5市に集中



☆市町別ホットスポットか所数



調査対象河川は、県人口の6割を超えるよう、散乱ごみの多い人口の集積した河川（主に2級河川、1級河川の県管理区間、準用河川、普通河川）を日本財団が選定して実施
※上島町、久万高原町、内子町、松野町、鬼北町の河川は調査対象外

調査データ：日本財団提供

■ 県調査（R 5～R 6）では、県内河川から瀬戸内海に年間14～65t（推計）の プラスチックごみが流出

（暦年）	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年
流出量(t)	51.01	65.48	37.87	14.27	23.67	38.44

2

■県内の河川ごみはプラスチック系が多く、松山市では特に袋詰めごみが目立つ



写真提供: 日本財団

3

取組の方向性 ~『5つの視点』~

- ① **調査研究データの発信、流域住民の意識喚起**
河川ごみの現状をSNS等で発信とともに、流域住民の関心を高める取組を実施
- ② **ムーブメントづくり**
ホットスポットでの河川清掃イベントなどを通じた行動変容の流れを創出
- ③ **河川ごみ回収の負担軽減策づくり**
流域住民等が主体的に取り組む河川清掃活動への支援
- ④ **新たな担い手づくり、技術・機器の導入**
環境問題に関心を持つ若者との連携や効率回収に資する技術・機器の導入
- ⑤ **河川ごみを発生させない啓発活動と仕組みづくり**
ごみの持ち帰りの徹底やごみ集積場等からの流下対策

えひめ河川ごみ対策 ロゴマーク・キャッチフレーズ 募集

☆河川ごみへの関心や行動変容の機運を高め、**県民が一体となった河川ごみ対策の推進**に向け、
共通『ロゴマーク』・『キャッチフレーズ』を募集します！

- 応募条件: 愛媛県在住の方 ※応募は1人3点まで(プロ・アマは問わず)
- 賞 品: ロゴマーク、キャッチフレーズ(各1点)…3万円相当の賞
- 募集期間: 令和7年12月25日(木)午後～令和8年2月13日(金)
- 選考発表: 選考後、新年度に発表



4